

資料1 諮問事項

絆づくりと活力あるコミュニティ形成に向けた社会教育のあり方

～絆～ 人と人とのつながりを大切にして

少子高齢化の進展、小家族化・核家族化の進行をはじめとする家族形態の変容、ライフスタイル・価値観の多様化などにより、地域に住む人々の連帯感や地域社会の一員としての意識が希薄化し、従来、互いに支え合い、共に助け合うなど、人々が生活する上での基盤としての役割を担ってきた地域コミュニティの姿が、今、大きく変化してきている。

そのような中、平成23年3月の東日本大震災は、わが国に未曾有の被害をもたらし、それまで、受け継ぎ、築き上げてきた多くのかけがえのないものを一瞬のうちに奪い去った。一方、被災地における地域住民、ボランティアをはじめとする多くの人々の献身的な救助、救護活動は、私たちに、人と人とのつながりの大切さや、共に助け合い、互いに支え合うといった人の絆の大切さを改めて実感させ、地域コミュニティの持つ大きな力を再確認させた。

このような状況を受け、国の第6期生涯学習分科会の間取りまとめにおいては、絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進として、「社会全体で子どもたちの活動を支援する取組の推進」、「学びの場を核にした地域コミュニティの形成の推進」、「豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実」など、今後の社会教育の振興に向けた方向性が示されている。

また、前回の山梨県社会教育委員の会議では、「『新しい公共』の形成に資する社会教育のあり方」について提言を行う中で、「人の役に立ち、他者と共により良く生きていくという前向きな気持ちを持った人々が、信頼関係に基づいてつながりあう社会こそが、これからの社会教育が構築しようとする社会」であり、これからの社会教育は、「信頼とつながりを基本に、人々の『学び合い、高め合い、支え合い』を引き出し、支えるための中核的役割を果たし、よりよい社会の形成に主体的に参画する人づくり、学びを通じたより良い社会づくりに貢献すること」が重要であることを指摘している。

現在、本県では、学校応援団など、学校と地域が連携・協働する取組が行われているが、社会全体で子どもたちの活動を支援することの重要性に鑑み、なお一層の推進が求められているところである。また、公民館をはじめとする社会教育施設では、様々な学びの場を提供し、活力あるコミュニティの形成に主体的に参画する人づくりを行う必要がある。さらに、地域社会の変容や家庭環境の変化の中、コミュニティなど、豊かなつながりの中での家庭教育のあり方も、これからの社会教育における重要な課題の一つである。

そこで、今期の社会教育委員の会議では、社会教育施設のあり方や、家庭教育への関わりを含め、絆づくりと活力あるコミュニティ形成に向けた社会教育のあり方について、御提言をいただきたい。